

第3次高浜市生涯学習基本構想 高浜市生涯学習基本計画【前期】

2023～2027

みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう
～学びをつなぐ 学びでつながる 大家族たかはま～



令和5年3月
高浜市・高浜市教育委員会

目次

第1章 はじめに

1 経緯	2
2 位置づけ	2
3 構成と期間	3
4 推進体制	4

第2章 高浜市の生涯学習を取り巻く現状と課題

1 高浜市を取り巻く社会背景	6
2 市民意識調査からみた現状	8
3 「第2次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」の振り返り	12

第3章 基本構想

高浜市がこれから目指していく生涯学習の方向性 -基本理念と3つの基本目標-

1 基本理念	20
2 基本目標	22

第4章 基本計画【前期】（期間：令和5年度（2023）～令和9年度（2027））

基本目標Ⅰ 知的好奇心や学びの意欲を高めよう！

目標1 未来を切り拓く力を育もう！	28
目標2 生き抜く力を培おう！	30

基本目標Ⅱ 学びの輪を広げ、まちの力を育てよう！

目標3 学び合いを通じてつながりを豊かにしよう！	34
目標4 多様性を認め合う社会を築いていこう！	36
目標5 スポーツをしよう・観よう・支えよう！	38
目標6 学びがにつながる環境づくりを進めます	40

基本目標Ⅲ 学びの成果を、まちづくりにつなげよう！

目標7 「たかはま大好き」の想いを高めよう！	44
目標8 学びの成果や地域の個性をまちづくりに活かしていこう！	46

生涯学習ってなに？

生涯学習とは、

人生を豊かにするために、生涯にわたって継続的に学んでいくこと。

生まれてから一生を終えるまで、人生の各段階において、また、家庭・学校・団体・地域・施設・職場など、多種多様な場面において行われるものです。

生涯学習には、知的好奇心を満たす、自らの「夢」を実現するために教養を深めるといった「自分のために蓄えるチカラ」と、学んだことを誰かに伝えたり、住んでいる地域のために活かす、学びを通じた仲間づくりといった「地域社会（まち）のチカラ」があります。

一人ひとりにできることは限られているとしても、「自分のために蓄えるチカラ」と「地域社会（まち）のチカラ」が組み合わせることにより、まちを動かす大きなチカラに変わっていきます。

さあ、「住んでよかった」「いつまでも住み続けたい」と思える高浜市（まち）づくりのために、学びの一步を踏み出してみませんか？

第1章

はじめに



第1章 はじめに

1.経緯

高浜市では、平成16年(2004)に「第1次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」を策定し、「自分づくりがまちづくり 自分発見!できるまち」を基本理念として、生涯学習社会の実現に向け、自らを磨く、地域社会を高める、創造性を育むといった観点の取組みを展開してきました。

平成24年(2012)には「第2次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」を策定し、「学び合い力を合わせて豊かな未来を育もうー「まなび」でつなぐ 大家族たかはまー」を基本理念として、子どもへのアプローチに重点を置くとともに、学びの成果を人づくりやまちづくりへ還元していく、学びと行動が循環しあう生涯学習への転換を目指してきました。

この度「第2次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」の計画期間が満了となることから、新たな生涯学習の基礎(方針)となる「第3次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」の策定を行います。

なお「第3次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」の策定にあたっては、社会教育委員会や各事業(会議体)で現状・課題把握を行ったほか、第7次高浜市総合計画策定に係る「高浜市の未来を描く市民会議」で出た意見なども参考にしながら、市民の皆さんと一緒に計画づくりを行いました。



2.位置づけ

人口構造の変化、デジタル化の到来といった社会潮流の変化を見据え、今後の高浜市における生涯学習・文化・スポーツの推進にあたっての基本的な考え方や取組み方向性を、「第3次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」として策定します。

「第3次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」は、高浜市の市政運営の根幹となる計画である「第7次高浜市総合計画」の個別計画という位置づけです。

また、教育基本法第17条第2項に定める教育の振興のための施策に関する計画のうち、生涯学習・文化・スポーツ分野を中心にとりまとめたものであり、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項に定める「子ども読書活動推進計画」、文化芸術基本法第7条の2第1項に定める「文化芸術推進基本計画」、スポーツ基本法第10条第1項に定める「スポーツ推進計画」の内容も併せ持っています。

3.構成と期間

「第3次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」は、高浜市が今後目指す生涯学習・文化・スポーツの基本的な考え方をまとめた「基本構想」と、構想実現に向けた取組みの方向性である「基本計画」によって構成します。

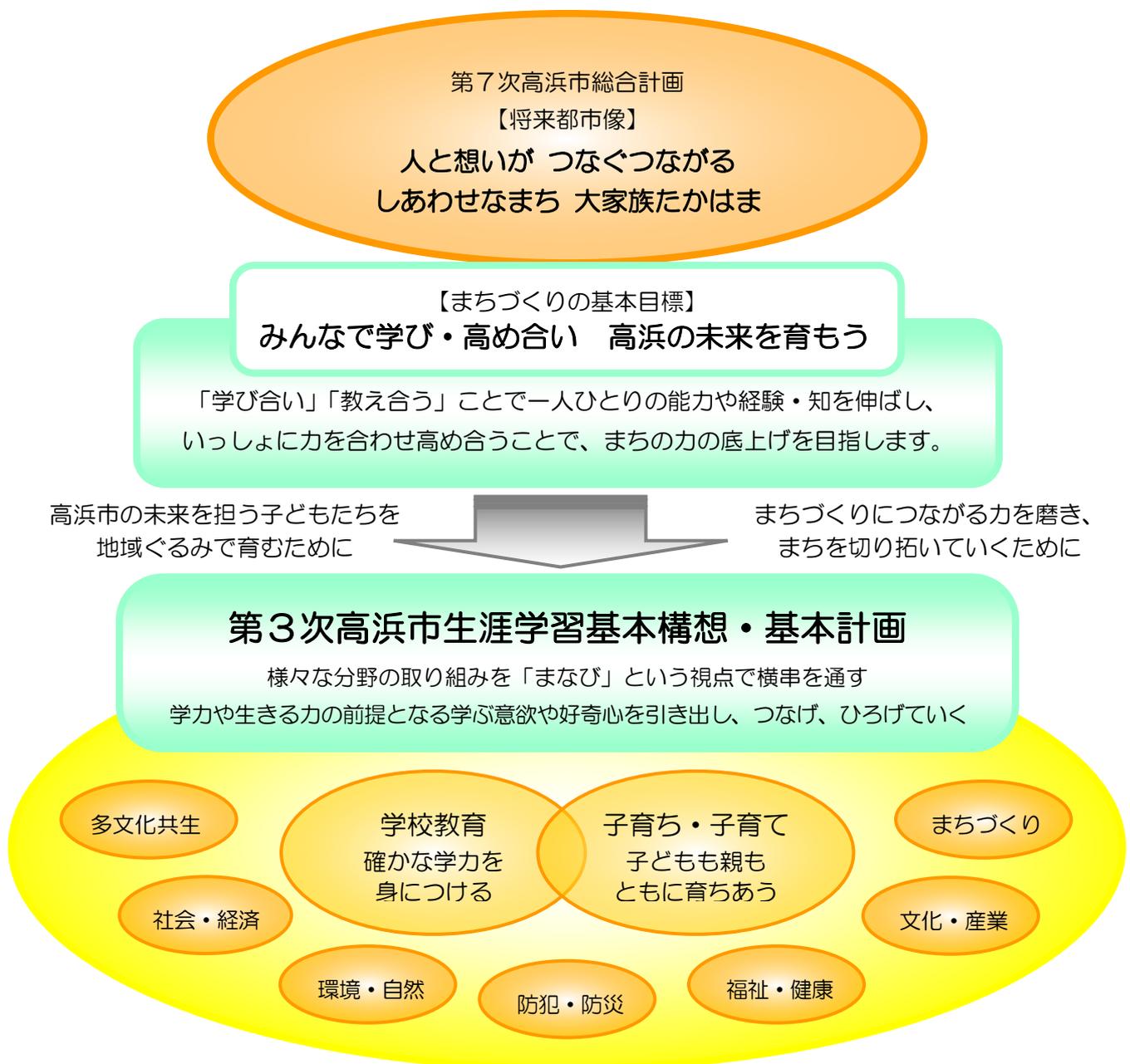
「基本構想」の計画期間は、令和5年度（2023）から令和14年度（2032）までの10年間とします。また、「基本計画」については、策定後の諸情勢の変化や取組みの進捗状況を踏まえて見直しができるよう、「第7次高浜市総合計画」の基本計画の計画期間に合わせ、前期（5年）・後期（5年）とします。

年度 暦年		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
第7次高浜市 総合計画	基本構想 市の将来像・基本 目標を定めたもの	10年 令和5年度（2023）～令和14年度（2032）									
	基本計画 今後取り組むべき 基本施策を 定めたもの	前期（5年） 令和5年度（2023）～令和9年度（2027）					後期（5年） 令和10年度（2028）～令和14年度（2032）				
第3次高浜市 生涯学習基本構想	基本構想 市の生涯学習・ 文化・スポーツの 基本的な考え方	10年 令和5年度（2023）～令和14年度（2032）									
	基本計画 構想実現に向けた 取組みの方向性	前期（5年） 令和5年度（2023）～令和9年度（2027）					後期（5年） 令和10年度（2028）～令和14年度（2032）				

4.推進体制

推進にあたっては「高浜市教育基本構想・高浜市教育大綱」や「高浜市子ども子育て支援事業計画」「高浜市第4次地域福祉計画」といった他の計画とも連携・整合を図りながら、取り組んでいきます。

なお、生涯学習・文化・スポーツは行政だけが担うものではなく、市民・団体・事業者・関係機関など、多様な主体と連携・協力しながら推進していくことが不可欠です。各まちづくり協議会が策定している小学校区単位のまちづくり計画「地域計画」も踏まえて推進していきます。



第2章

高浜市の生涯学習を
取り巻く現状と課題



第2章 高浜市の生涯学習を取り巻く現状と課題

1.高浜市を取り巻く社会背景

(1) 人口構造の変化

- 近年の高浜市の総人口は49,000人程度で推移しています。年少人口（0～14歳）は減少傾向にあり、生産年齢人口（15～64歳）も2030年をピークに減少に転じると見込まれています。老年人口（65歳以上）においても、約40年後の2060年には減少に転じると見込まれています。

（出典：「高浜市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和2年3月改訂)」）

- 全国で見ると、平成27年（2015）に100万6千人であった年間出生数は、令和元年（2019）には86万5千人と過去最少を記録し、少子化が加速化しています。
- 全国で見ると、平均寿命が延伸しており、超高齢化社会が進展しています。90歳まで生存する人の割合は、令和2年（2020）に生まれた人では、男性28.1%、女性52.6%とされています（出典：内閣府「高齢社会白書」令和4年版）。

また、日常生活に制限のない期間（健康寿命）は、令和元年時点で男性が72.68歳、女性が75.38歳となっており、健康寿命の延伸が見られるようになっていきます（出典：内閣府「高齢社会白書」令和4年版）。

より一層、平均寿命と健康寿命との差を縮めていくことが大切です。

(2) 情報社会の進展

- パソコン・携帯電話・スマートフォンの普及やICT*を活用したサービスの進展などは、ライフスタイルや働き方、コミュニケーション手段などに変化をもたらしています。情報格差の解消、技術の急速な進展や社会変化に対応できる知識や技能などを身につけていくことが求められています。
- 第4次産業革命ともいわれるIoT*やAI*をはじめとする技術革新の一層の進展により、新たな知識やアイデアが生まれる可能性を秘めています。

*ICT・・・情報通信技術（Information and Communication Technology）の略で、PCだけでなくスマートフォンやスマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称を指します。

*IoT・・・Internet of Things の略で、「様々な物がインターネットにつながること」「インターネットにつながる様々な物」を指しています。IoTは、日本語で「モノのインターネット」と訳され、PCに限らず様々なモノがインターネットにつながります。

*AI・・・人工知能（Artificial Intelligence）の略。コンピュータの性能が大きく向上したことにより、機械であるコンピュータが「学ぶ」ことができるようになり、その機械学習を始めとしたAI技術により、翻訳、自動運転、画像診断等の人間の知的活動に大きな役割を果たしています。

(3) 家族形態や子どもの教育・生活環境などの変化

- 新型コロナウイルス感染症を契機に、暮らしや働き方の新しいスタイルが定着しつつあります。
- 情報社会の進展の一方で、顔を合わせること（フェイス・トゥ・フェイス）、集うことの大切さが見直されています。
- 単身世帯の増加や地域とのつながりの希薄化（町内会加入率の低下）なども課題として挙げられるようになりました。
- 両親共働き世帯の増加や、学校教育における GIGA スクール構想推進など、家庭や子どもの教育環境に変化があります。家庭・学校・地域がそれぞれ連帯しながら総合的に教育力を向上していく必要があります。

(4) SDGs（持続可能な開発目標）の視点

- SDGs は、発展途上国のみならず先進国を含む国際社会全体の開発目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な 17 の目標及び細分化された 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、環境・経済・社会の諸課題を包括的に扱い、広範囲な課題に対する統合的な取組が示されています。
- その目標のひとつには「4. 質の高い教育をみんなに -すべての人々に包摂的かつ公正で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する-」が掲げられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

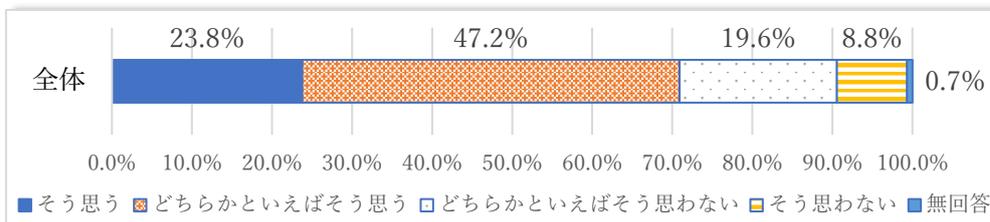


2. 市民意識調査からみた現状

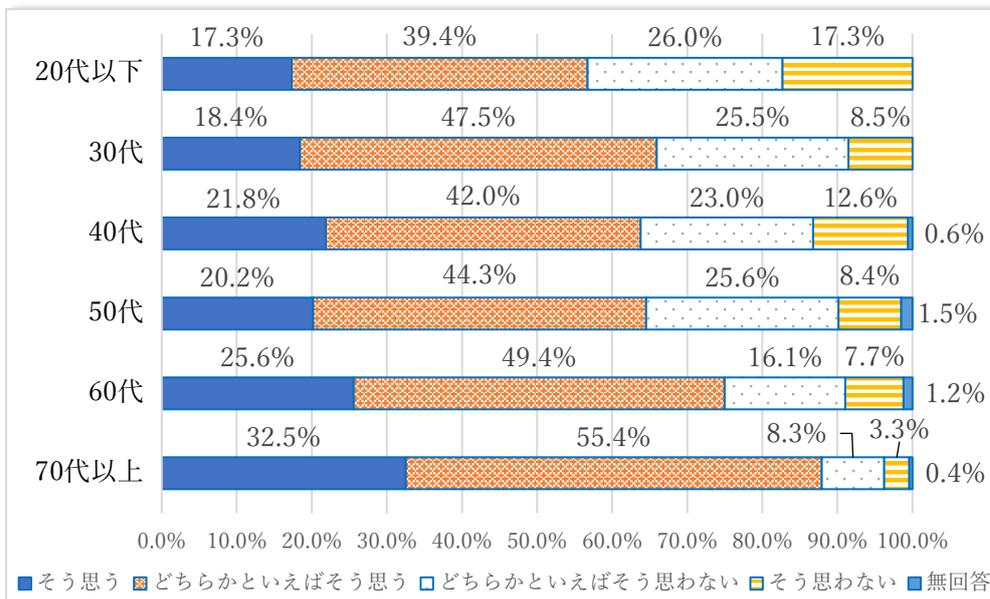
令和4年（2022）12月に「市民意識調査」（満18歳以上の市民2,500人を無作為抽出）と「児童・生徒の意識や行動に関するアンケート」（小学6年生と中学3年生を対象）を実施しています。その主な結果については、以下のとおりです。

（1）市民意識調査

① 高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合



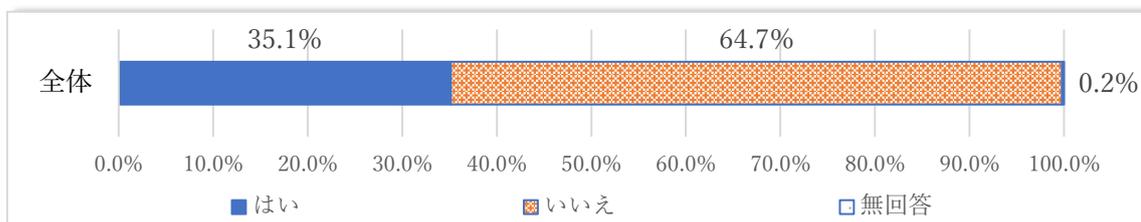
「そう思う+どちらかといえばそう思う」を足すと71%の人が愛着や誇りを持っている結果です。



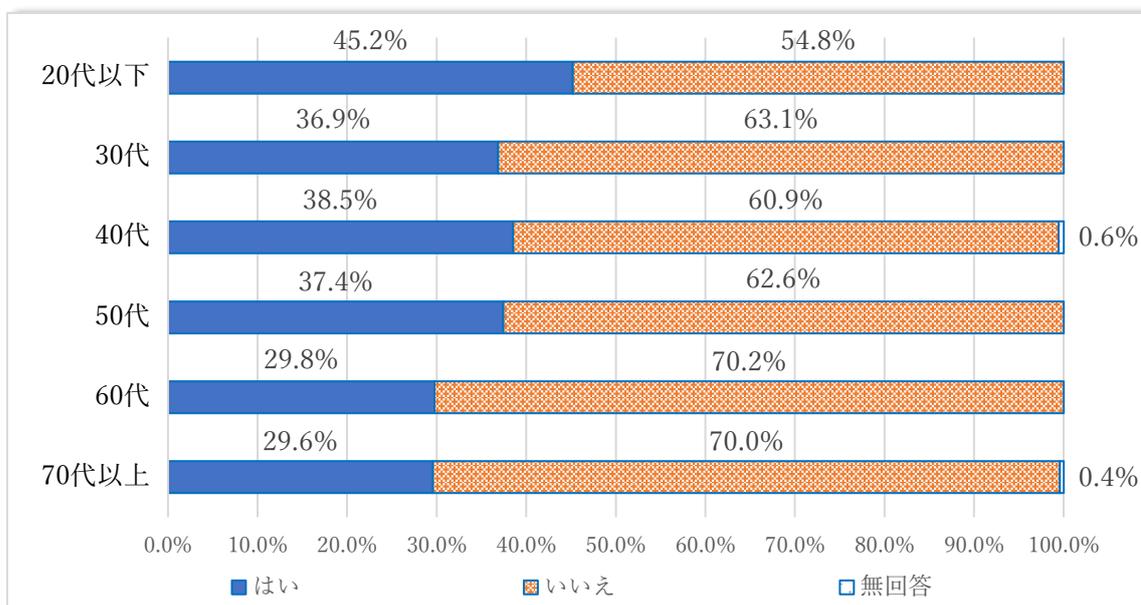
高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合が低下すると、まちの歴史や伝統・文化に対する関心や「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくなりたい」といったまちづくりの原動力が希薄になることが危惧されます。

学び・文化・スポーツ活動を通して、人とのつながりやまちの魅力の掘り起こしを行いながらまちづくりの原動力となる愛着や誇りを育てていくことが重要です。

② 持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合



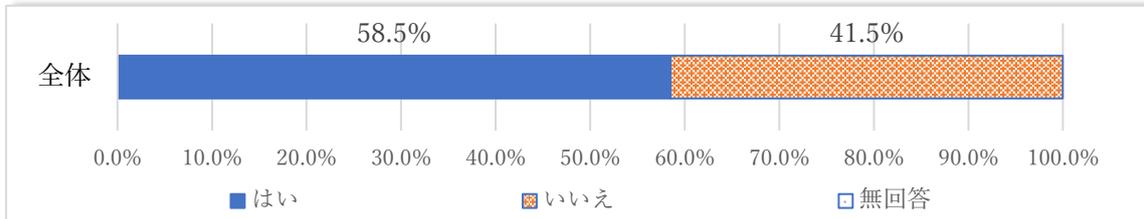
約 35%の人が自分の持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしていると回答しています。



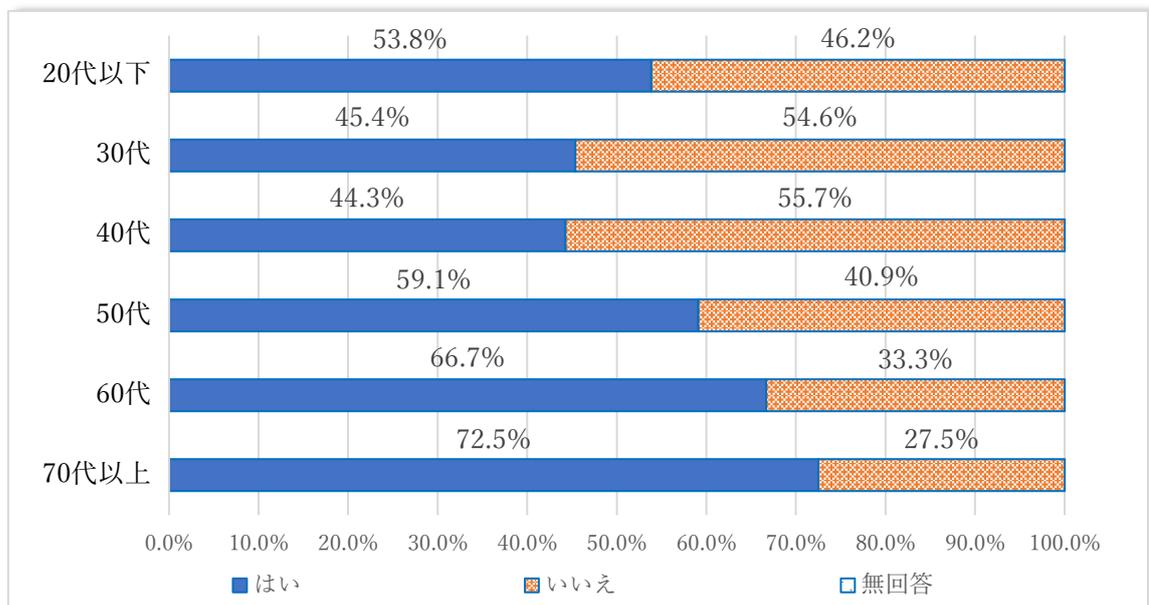
市民の皆さんが持っている知識・特技・体験は、まちの財産でもあります。「自分のための学び」にとどまることなく、「教える」「発表する」「活動する」など、学びで培った知恵・特技などを地域や社会の中で様々な形で活かしていくことが重要です。

そうすることによって「もっと知りたい」「何かやってみたい」「誰かの役に立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といった学びの好奇心や意欲の向上、まちへの愛着・誇りの醸成、まちづくりへの参加・参画のすそ野の広がりが期待されます。

③ 体力や健康の保持増進を目的として、習慣的に体を動かしている割合



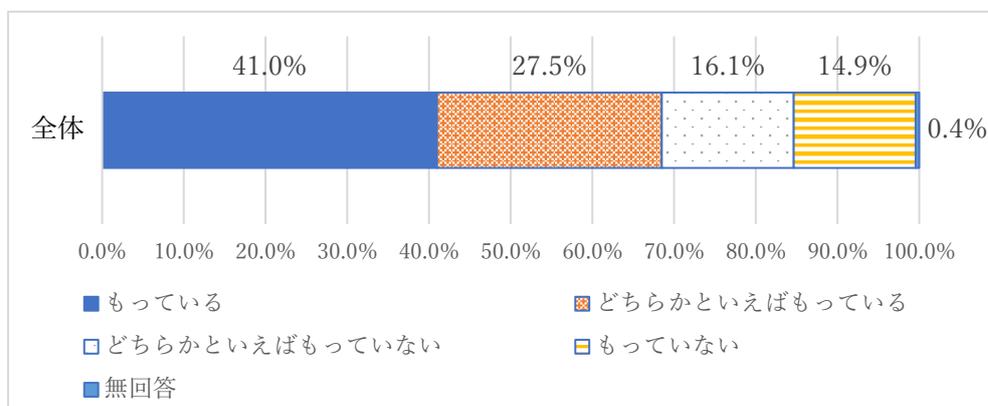
約6割の人が日常的に体を動かしていると回答しています。



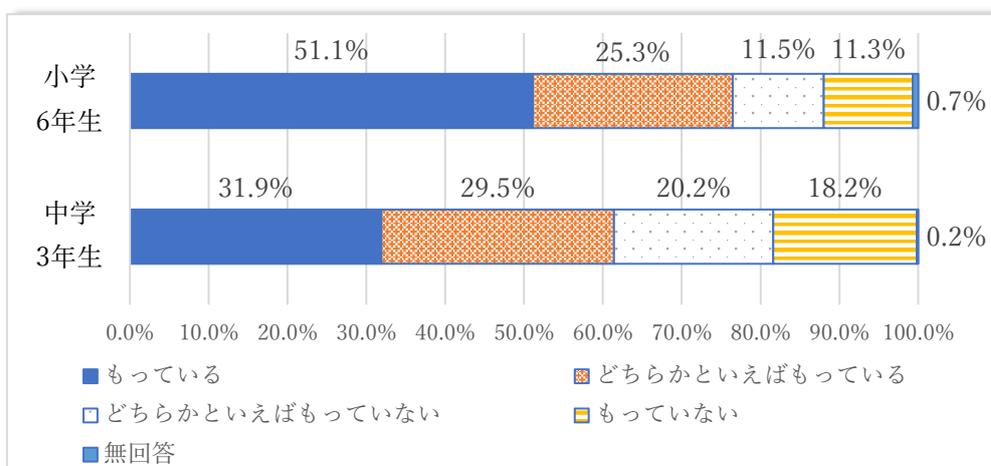
50歳代以上から体を動かしている割合が高くなっていることから、歳を重ねると同時に、生涯を健康に過ごすことを望んでいる方が多くいることがわかります。

(2) 小中学生アンケート

「あなたは将来の夢や目標をもっていますか？」



「もっている+どちらかといえばもっている」を足すと68.5%の児童・生徒が将来の夢や目標を持っています。



中学3年生は小学6年生と比べ、「もっている+どちらかといえばもっている」と回答した割合が15ポイント減少しています。

学年が上がるにつれ、環境の変化や進路について考えることが多くなることから低下していると想定されます。

3.「第2次高浜市生涯学習基本構想・基本計画」の振り返り

『第2次高浜市生涯学習基本構想・基本計画』では、「学び合い 力を合わせて豊かな未来を育もう-「まなび」でつなぐ 大家族たかはま-」を基本理念に掲げ、基本方針に沿った取組みを、行政だけでなく、市民・団体・事業者・関係機関など多様な主体と連携しながら推進してきました。

主な取組内容とその成果・課題は、次のとおりです。

(1)「まなび」の芽を発芽させよう！

目標① 自分磨きを続けていこう！

目標② 未来に羽ばたく人材を育てていこう！

目標③ セカンドライフをいきいきと過ごそう！

【キーワード】好奇心に灯をともしよう

主な取組み・成果	今後の課題・新たな課題
<p>○かわら美術館や図書館、公民館のほか、まちづくり協議会などの市民団体が主催となり、学びの好奇心や意欲を高める多種多様な講座・体験事業が活発に行われた。</p> <p>○たかはま夢・未来塾をはじめ、文化・スポーツなどの全国・世界大会へ多くの子どもが出演している。好成績を収める子どもも多く、市民やまちの自慢・誇りにつながっている。</p> <p>○市民ムービー「タカハマ物語」の制作等を通して、年齢を超えた人と人とのつながり、自ら考え行動できる子ども・若者の育成、住んでいるまちのために何かやってみたいという想いの醸成や行動につなげることができた。</p>	<p>●学びの入り口となる知的好奇心に灯をともし続けたり、生き抜く力を磨くなど、成長を続けられる機会を、より一層豊かにしていくことが大切である。</p> <p>●情報通信技術（ICT）を取り入れた多様な学びを推進していく必要がある。</p> <p>●地域の大人たちに見守られ、育った子ども・若者たちが、サポーターや指導者など、次世代当のためにまなびの担い手として活躍できるようにしていくことが大切である。</p>

○地域課題をビジネスで解決する高浜高校SBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）活動がスタート。鬼瓦職人や自動車部品メーカーとの連携や、プロバスケットボールリーグ・シーホース三河のイベント出店収益で高浜市の子どもたちをシーホース三河の試合へ招待をめざす取組みなどが評価され、「第5回全国高校生SBP交流フェア」で文部科学大臣賞を受賞。

○子ども健全育成支援員を配置し、子ども・若者への相談支援を実施した。また、学習支援事業（例：ステップ）も併せて開始した。

○特定非営利活動法人たかはまスポーツクラブ、市スポーツ推進委員会、市スポーツ協会、高浜ボートクラブ等と連携・協働により、各種スポーツイベントを実施。

○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にちなんだ行事など（例：地域交流施設「たかびあ」エントランスホールにおける特集展示、東京2020パラリンピック聖火（大家族たかはまの火）採火など）を実施した。

○生涯現役まちづくり事業（例：健康自生地）の推進により、高齢者の閉じこもり予防、外出機会や活動担い手としての活躍の場などが創出された。



高浜高校SBP活動

●社会経済的背景にとらわれず、子ども・若者の「学びたい」という想いを支えていくことが大切である。

●年齢等を問わず、いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも気軽に楽しめるニュースポーツ（例：ポッチャ）を、より一層普及させていく必要がある。



ミニ展示「東京2020オリンピック・パラリンピック～高浜編～」

●高齢者の外出促進、人とのつながりを育みながら楽しく、生きがいを持てる場づくりをさらに進めていく必要がある。

(2)「まなび」の芽を育てるために、 みんなで水や養分を与え合おう！

目標① 学区を基盤とした世代間交流を活発にしよう！

目標② 教え・教えられる仲間づくりを築いていこう！

目標③ まなびの資源を有効活用しよう！

【キーワード】人と人 人と「まなび」を結び合おう！

主な取組み・成果	今後の課題・新たな課題
<p>○まちづくり協議会などの市民団体が主体となり、市民の持っている知恵・特技・経験等を活かした市民交流事業、地域課題の解決や地域の魅力増進に資する事業が活発に行われた。(例：青パト乗車体験、災害疑似体験、防犯防災運動会、菊1本でまちづくり事業、稗田川・花と緑のプロジェクト、ふれあい農園事業など)</p> <p>○公民館活動とまちづくり協議会活動の統合が行われ、小学校区を単位に、地域の力がより集約化され、総合力が高まってきた。</p> <p>○3小学校区(港・翼・高取)のおやじの会が連携した取組みが行われるようになった。</p> <p>○「ざっくばらんなカフェ」など、多様な人が集い、ゆるやかにつながり合う場を創出した。</p> <p>○かわら美術館や図書館などにおいて、市内小中学校や高浜高校と連携した事業が行われた。</p>	<p>●子どもたちが地域の方たち(ゲストティーチャー)と関わる中で、地域や社会に関心を持ち、「自分も高浜市民の一員である」ことを自覚し、自分にもできることを考え、実践できるようにしていくことが大切である。</p> <p>●公民館活動や子ども会活動など、既存組織のあり方が変容する傾向が見られる。活動の根っこは大切にしつつも、状況によっては、時代に合わせて組織や活動を見直していくことも必要となる。</p> <p>●「自分のための学び」にとどまることなく、学んだり体験したことを「教える」「発表する」「活動する」など、社会の中で、あるいは次の世代のために様々な形で活かせるよう、活動の担い手の掘り起こしと育成、市民同士の学び合い・高め合いの場づくり、学びを通した</p>

(例) 中学校吹奏楽部や美術部、高浜高校手話部との連携による「オリオン座コンサート（かわら美術館）、高浜高校手話部の部員が講師となった「手話講座」（図書館）、高浜高校写真部と三州瓦工業共同組合との連携によるカレンダー製作

○公共施設再編のモデル事業として、高浜小学校の複合施設として「地域交流施設」（愛称：たかぴあ）がオープンした。

○スポーツや市民交流の場として「高浜芳川緑地多目的広場」がオープンした。

○民間活力による新たなスポーツ拠点の整備・運営として「勤労青少年ホーム跡地活用事業」が始まった。

○図書館機能をかわら美術館といきいき広場へ移転する方針が決まった（令和5年度から「かわら美術館・図書館」として運営がスタート）。

○多文化共生コミュニティセンターがオープンした。

○大学や企業との連携による事業を実施した。

(例：愛知教育大学地域連携講座、名古屋市立大学「聞き書きプロジェクト」)

人とのつながりづくりを、市民団体・地域・関係機関とも連携・協力しながら進めていく必要がある。

●「公共施設総合管理計画」や年度ごとに策定する「公共施設推進プラン」に基づき、公共施設の再編や有効活用などに取り組んでいく必要がある。

●情報通信技術（ICT）を活用した、新たなつながりを育てていく必要がある。

●文化や個性など、多様性を理解し、認め合い、一人ひとりが輝くことができる風土を育てていくことが必要である。

●関係人口の増加など、多様な主体との連携・協力関係を豊かにしていくことが大切である。



ふれあい農園事業



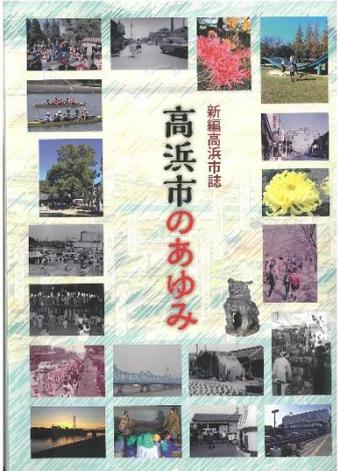
高浜小学校と地域交流施設「たかぴあ」

(3)「まなび」の根っこをしっかりと大地へ下ろし、 芽を大樹のように育てていこう！

目標① まちへの愛着と誇りを高めていこう！

目標② まなびの成果や地域の個性をまちづくりに活かしていこう！

【キーワード】「まなび」の輪をまち全体へ広げていこう！

主な取組み・成果	今後の課題・新たな課題
<p>○「タカハマ！まるごと宝箱」事業による高浜市の魅力・自慢の掘り起こし、市民同士の語り合いを進めた。魅力・自慢の伝承・活用等が重要であるという意識を高めることができた。新たな「高浜市誌」の編さんの動きにつながった。</p> <p>○「市民とともにつむぐ・つなぐ」を基本方針として、新編高浜市誌「高浜市のあゆみ」を編さん・発行した。新たな資料の掘り起こし、散逸・消失しかねない資料や人々の記憶等を記録として残すことができた。市の文化財指定にもつながった。編さんを契機に、調査依頼が寄せられたり、「まちのことを知りたい」「調べてみたい」という動きが少しずつ起こり始めた。</p> <p>○市誌編さん後の取組みとして、市誌を読む会、ミニ展示、たかはま歴史散歩、高浜市のあゆみ資料発行に向けた補足調査など、「たかはま歴史・文化保存活用事業」を推進した。</p> <p>○園児・児童・生徒による鬼あかり（ランプシェード）の制作・展示</p> <p>○「菊人形づくり」を高浜市無形文化財に指定</p>	<p>●まちづくりの原動力となる「高浜市が好き」「住んでいるまちをより良くしたい」という関心や想いを高めていくことが重要である。</p> <p>●様々な角度から、まちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観等）を見る・聴く・触れる機会を設けていくことが大切である。</p> <p>●新編高浜市誌「高浜市誌」に掲載しきれなかった先人たちの足跡等について調査を継続し、後世へ伝え、人づくり・まちづくりに活かしていく必要がある。</p> <div data-bbox="890 1301 1273 1877" style="text-align: center;">  <p>新編高浜市誌「高浜市のあゆみ」</p> </div> <p>●文化・伝統の伝承、後継者育成が重要である。</p>

- 南海山地蔵寺「六道絵」「浄土図」（地獄極楽絵図）を高浜市有形文化財に指定
- 寿覚寺「絹本着色方便法身尊像」「蓮如上人六字名号」「蓮如上人九字名号」を高浜市有形文化財に指定

○小学6年生を対象に、市民と行政が連携し「自治基本条例出前授業」を実施した。

○市制50周年記念事業を、若者を含む市民との協働により企画立案・実施した。

○「第7次高浜市総合計画」の策定や「図書館フォーラム」など、各種計画づくりなどに関するワークショップなどをおして、市民とともにまちの将来像について考えた。

●まちづくりを自分ごととして捉えることができるよう、まちの課題や魅力・自慢を知り、将来を考える機会や、一人ひとりができることやみんなのできることを考える機会を設け、課題解決や魅力増進に向けて行動に移していくことができる人材を育成していくことが大切である。

●学びは人づくりやまちづくりの土台となる重要な要素であるという意識を高めるとともに、子育て・子育ち、福祉、健康、環境、防犯・防災、産業、職業訓練など、様々な分野の取組みをまなびという視点で横ぐしを通し、まなびの効果を高めていくことが大切である。



たかはま歴史散歩



『図書館の新たなカタチ』フォーラム

第3章

基本構想



第3章 基本構想

高浜市が今後目指す生涯学習の方向性

— 基本理念と3つの基本目標 —

市政運営の根幹となる「第7次高浜市総合計画」では、将来都市像として「人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま」を、教育や子育て・子育て分野の基本目標として「みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう」を掲げています。

このような総合計画における目標設定や、高浜市を取り巻く現状・課題、今後の社会潮流の変化などを見据え、「第3次高浜市生涯学習基本構想」では、高浜市における生涯学習・文化・スポーツの推進に向けた基本理念と、基本理念を実現するための考え方や姿勢を示す基本目標を、次のとおり定めます。

1.【基本理念】

「みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう

～学びをつなぐ 学びでつながる 大家族たかはま～」



生涯学習・文化・スポーツは、教育、子育て・子育て、福祉、健康、産業、防犯・防災、環境、多文化共生など、人づくりやまちづくりの原動力、土台となるものです。

市民一人ひとりが学びや暮らし、人生を通じて培ってきた知恵・特技・経験をまちの財産としてとらえ、自分の中だけにとどめてしまうのではなく、誰かに伝えたり、地域の中で役立てることで、市民同士のつながりが深まります。また「もっと知りたい」、「高浜市が好き」、「誰かのため、地域のために何かやってみよう」といった、さらなる知的好奇心・意欲やまちへの想いの高まり、まちづくりへの参加・参画の裾野の広がりといった循環にもつながっていきます。

そして、学び合いを通して、お互いの個性や多様性を知ることは、新たな価値観やアイデアの源が生まれ、まちの未来を切り拓く力となっていきます。

そこで、高浜市における今後の生涯学習・文化・スポーツ推進にあたっての基本理念を「みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう ～学びをつなぐ 学びでつながる 大家族たかはま～」と定めます。

STEP1 自己発見

自分も知らない自分に気づく、出会う
感動や体験に出会い、ときめく

興味を
持つ
体験する

「出会う・気づく・ときめく・たくわえる」

ひとづくり

家庭・地域・学校などあらゆる場・機会を通じて
たくさんの感動・楽しさと出会うことによって
心豊かな人生につながっていく

STEP2 自己実現

学びを実践していくことで、喜び・楽しさを感じ、
もっと知りたい、やってみたい!という思いがわき起こる



夢・希望
を持ち
人生設計
を描く

STEP3 自己変革

“なりたい自分”を目指して
自分を変えていこう

豊かなコ
ミュニケ
ーション
を育む

深く調べ
てみる・
挑戦する

「つながる・広げる

・育む・ささえる」

STEP4 社会参加

自分の持っている力を人や地域のために
役立ててみよう

人に教
え・教え
られる

課題解決
に向けて
提案・行
動する

「つたえる・好きになる・活かす」

STEP5 社会変革

まなびの成果をまちづくりの
チカラに変えていこう

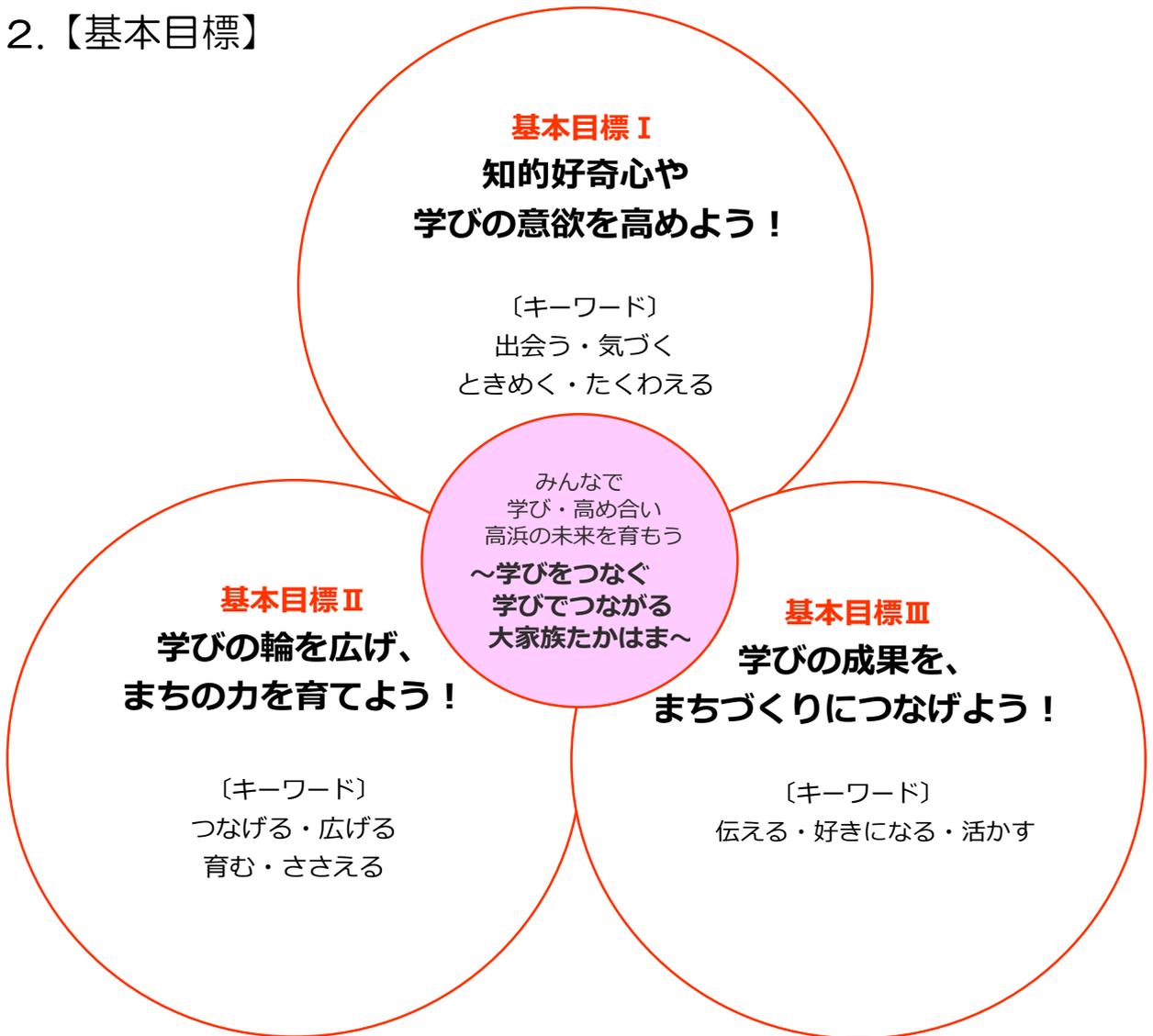
学びをつなぐ
学びでつながる
大家族たかはま
の実現へ

まちづくり

成長した子どもたち、学びによって力を蓄えた大人
たちは、次の世代へ感動や体験を伝えたり、まちづ
くりへと還元していく学ぶ意欲につながる感動や
体験を、伝えていく役割を果たす

これからの高浜市が目指す 生涯学習の姿

2. 【基本目標】



◆学びの **きっかけ** づくり

基本目標Ⅰ 知的好奇心や学びの意欲を高めよう！

一人ひとりが自らの興味や関心から端を発し、知識や技能を高めたり、創造性を育てていくことは、学びの第一歩です。人生100年時代、マルチステージ型人生^{*}と言われる中で、お腹の中にいる時から一生を終えるまで、「もっと知りたい」、「あれもやってみたい」といった知的好奇心や意欲を高める機会や、生き抜く力を磨くなど成長を続けられる機会を豊かにしていくことを目指します。

特に、子ども・若者に対しては、一人ひとりの個性や可能性を引き出し、夢や希望を持って未来に向かって羽ばたいていくためのサポートに力を入れています。

^{*}マルチステージ型人生：教育・仕事・退職後という3ステージの人生モデルから、仕事中心ではなく、家族との団らん、余暇活動、付き合い、ボランティア、地域活動、学びなおしなどを並行して行ったり、複数のキャリアを持つなど、多様な生き方を目指した人生モデルのこと。

◆学びを通した **つながり・人**づくり

基本目標Ⅱ 学びの輪を広げ、まちの力を育てよう！

人材は「人財」とも言われるように、市民一人ひとりが学びを通して培った知恵・特技・経験などは、有形・無形の財産です。個人の中だけにとどめてしまうのではなく、誰かのため、地域や社会のために役立てていくことによって、仲間づくりや絆づくり、「もっと知りたい」「あれもやってみたい」といった知的な好奇心や意欲の高まりなどにつながっていきます。

また、市民同士の学び合いを通して、お互いの個性や多様性を知ることにより、新たな価値観やアイデアの源が生まれ、まちの力を育む礎となります。

暮らしや学びを通じて培われた知恵・特技・経験等を活かせる機会、市民同士の学び合いを通してともに成長しあえる機会を豊かにしていくことを目指します。

◆学びを通した **まち**づくり

基本目標Ⅲ 学びの成果を、まちづくりにつなげよう！

高浜市における市民・議会・行政が果たす役割やまちづくりのルールを定めた「高浜市自治基本条例」の前文には、まちづくりの決意として「私たちの愛するまち高浜市を未来へつなげていくために」という一文があります。

今を生きる私たちが、今を生きる人たちのために、また、将来世代のために「住んでみたい」「住んでよかった」「いつまでも住み続けたい」と思える高浜市を築いていくためには、まずは高浜市を知ることが大切です。

そして、まちづくりの原動力である「高浜市が好き」というまちへの愛着・誇りは、まちづくりに関わることから芽生えていきます。一人ひとりがまちの課題を「自分ごと」と捉え、行動していくことによって、また各々が培った学びをつなげ、その力を結集させていくことによって、まちの課題解決力や未来を切り拓く力を高め、「大家族たかほま」の実現を目指します。

第4章

基本計画【前期】

期間：令和5年度（2023）

～令和9年度（2027）



第4章 基本計画

計画の体系

基本理念

みんなで学び・高め
合い 高浜の未来を育
もう～学びをつなぐ
学びでつながる 大家
族たかはま～

基本目標

基本目標Ⅰ

知的好奇心や
学びの意欲を高めよう！

基本目標Ⅱ

学びの輪を広げ、
まちの力を育てよう！

基本目標Ⅲ

学びの成果を、
まちづくりにつなげよう！

目標

目標1 未来を切り拓く力を育もう！

目標2 生き抜く力を培おう！

目標3 学び合いを通じて
つながりを豊かにしよう！

目標4 多様性を認め合う社会を
築いていこう！

目標5 スポーツをしよう・
観よう・支えよう！

目標6 学びがにつながる環境づくりを進めます

目標7「たかはま大好き」の想いを
高めよう！

目標8 学びの成果や地域の個性を
まちづくりに活かしていこう！



基本目標 I

目標 1 未来を切り拓く力を育もう!

目標 2 生き抜く力を培おう!

目標1 未来を切り拓く力を育もう！

目指す5年後のまちの姿

- ◇様々な学び・体験・感動と出会い、「知りたい」「やってみたい」といった知的好奇心や意欲が高まっています。
- ◇文化・芸術などに触れることにより、感性が磨かれ、創造力が豊かに育まれています。
- ◇子どもたちが自ら考え、挑戦し、行動する力が育まれ、個性を伸ばしています。
- ◇子どもたちの地域や社会に対する関心が高まり、「自分も高浜市民の一員」という意識が芽生えています。

5年後のまちの姿の実現を見据えた 課題・視点

- ・家庭・学校・地域が一体となって、子どもたちの「もっと知りたい、学びたい」という意欲を引き出し、生きる力を育てていくことが大切です。
- ・社会経済的背景に関わらず、子ども・若者の「学びたい」という想いを支えていくことが大切です。
- ・子どもたちが社会との関わりを持ち、責任感や達成感を育むことができる機会を設けていくことが必要です。
- ・ライフスタイルやライフステージに応じて、様々な人・モノ・コトに興味・関心を持つことができる環境づくりが必要です。



たかはま夢・未来塾活動



ようこそ！あかちゃん ようこそ！びじゅつかん



朝の読書活動



アートで感性を磨く

こんなことに取り組んでいきます！

- 「かわら美術館・図書館」を核に、展示・図書（読書活動）・ワークショップなど、様々な手法・資源を用いて、知的好奇心、学びの意欲、知性・感性、創造力が高まる取組みを進めます。
- まちづくり協議会をはじめ、地域・団体・関係機関などと連携しながら、子ども・若者の生きる力・挑戦する力やまちを思う心を育む視点を取り入れた取組みを行います。
- 絵本の読み聞かせや調べ学習など、親子がふれあい、ともに心豊かに学びあう機会を創出・支援します。
- 子ども健全育成支援員による伴走型支援、幼少期からの学習支援や就労準備支援、家計相談支援などを、地域・団体などと協力・連携しながら取り組めます。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- ・興味・関心の幅を広げよう。
- ・「なぜ？」「なに？」と思ったことは調べてみよう。
- ・学びの場に足を運んでみよう。
- ・読書習慣を身につけよう。

地域

- ・未来を担う子ども・若者を育成するといった視点をもった事業を企画・実施しよう。
- ・子ども・若者の考えを取り入れ、子ども・若者が参加・参画できる機会を増やしていこう。

関係機関・団体

- ・未来を担う子ども・若者を育成するといった視点をもった事業を企画・実施しよう。
- ・子ども・若者の考えを取り入れ、子ども・若者が参加・参画できる機会を増やしていこう。

行政

- ・市民・地域・団体・関係機関などに対して、市の学びに対する考え方を広く伝え、取組みを働きかけます。
- ・子ども・若者が自ら考え、挑戦し、行動できる機会の創出を、地域・団体・関係機関などと連携して取り組みます。

目標 2 生き抜く力を培おう！

目指す5年後のまちの姿

- ◇家庭・学び・仕事・趣味・地域活動などを並行して行い、人生をいきいきと過ごしています。
- ◇知識・技能・経験などを蓄え、自ら考え、行動し、挑戦する人が増えています。
- ◇時代の変化や社会課題に対応できる力を身につけた人が増えています。
- ◇まちや社会の成長・発展をけん引する多様な力が育っています。

5年後のまちの姿の実現を見据えた 課題・視点

- ・人生 100 年時代を見据え、時代や社会の変化を前向きに受け止め、生涯を通じて自らの人生を設計していく力を身につけていくことが大切です。
- ・ライフスタイルやライフステージに応じて、必要な知識や技能などを学び続けられるようにしていくことが大切です。
- ・身につけた知識・技能などを、働くことや地域・社会の課題解決のための活動に役立てていくことが大切です。
- ・多様な学びに出会い、興味・関心を持ったことに挑戦するなど、人生の可能性を広げ、人生を切り拓く原動力を養うことができる環境づくりが大切です。



こんなことに取り組んでいきます！

- 「かわら美術館・図書館」において、「どうしよう？」「困った」といった課題の解決や、「〇〇をしたい・やってみたい」といった想いを、図書を通じて応援する読書相談支援の取組みを推進します。
- 職業生活、防災や子育て・福祉・介護などの社会課題について、年齢を問わず気軽に楽しく学べる場、技能を身につけられる場、体験機会などを、地域・団体・関係機関・企業と連携しながら創出します。
- 認知症・生活習慣病・フレイル*予防、「健康自生地」*の運営など、生涯現役のまちづくりを進めます。

*フレイル：加齢に伴い、身体や心の働き、社会的なつながりが弱くなった状態を指し、放置すると「介護が必要な状態」になる可能性がある。

*健康自生地：高齢者が家に閉じこもることなく、いきいきとした生活を送ることができるよう、自ら出かけたくなるような場所で、各種活動や、地域の皆さんとの交流ができる場所。各健康自生地の運営は、地域の皆さんが自主的・主体的に行っている。（商標登録第5486837号）。

みんなで力を合わせて進めていこう！～それぞれの役割～

市民

- ・興味・関心の幅を広げよう。
- ・困ったことがあったら、周りの人に聞いてみよう。
- ・読書相談を活用しよう。
- ・地域活動や学習活動に積極的に参加しよう。

地域

- ・社会課題に関する学びの機会を企画・実施しよう。
- ・声を掛け合って、みんなで生涯学習活動に参加してみよう。

関係機関・団体

- ・社会課題に関する学びの機会を企画・立案しよう。
- ・困った人がいたら積極的に声をかけてみよう。

行政

- ・社会課題に関する学びの機会を地域・関係機関・団体・企業と連携して実施します。
- ・ライフスタイルやライフステージに応じて学ぶことができる環境を整えます。

基本目標Ⅱ

目標 3 学び合いを通じてつながりを豊かにしよう!

目標 4 多様性を認め合う社会を築いていこう!

目標 5 スポーツをしよう・観よう・支えよう!

目標 6 学びがつながる環境づくりを進めます



目標3 学び合いを通じてつながりを豊かにしよう！

目指す5年後のまちの姿

- ◇年齢や経験に関わらず、暮らしや学びを通じて培われた知恵・特技・経験などを活かせる機会が増えています。
- ◇多くの子どもたちが、地域行事やボランティア活動に参加しています。
- ◇多くの大人たちが、地域の子どもたちのために活動しています。
- ◇市民同士の学び合いが活発に行われ、ともに成長しています。
- ◇小学校区を単位にした地域活動・まちづくりが活発に行われています。
- ◇市民・団体・関係機関などがつながり合うことにより、新たな学びとの出会いが生まれています。

5年後のまちの姿の実現を見据えた 課題・視点

- ・学んだり体験したことを、今を生きる私たちや次の世代のために様々な形で活かせるよう、活躍の場の創出や活動の担い手の掘り起こし・育成を進めていくことが大切です。
- ・市民同士の学び合いを通して、お互いに顔の見える関係を築いていくことが大切です。
- ・様々な人・モノ・コトが交じり合うことにより、新たな学びへの出会いや気づき、意欲の高まり、アイデアの創出など、まちの礎となる力が育まれていくことが期待されます。



(地域と学校) いっしょに菊人形づくり



「手と手ではなそう！手話教室」
(高浜高校手話部)

こんなことに取り組んでいきます！

- 「教える」「発表する」「活動を手伝う」「情報を提供する」など、年齢や経験に関わらず、多様な形で学びの成果や知恵・技能・経験などを活かせる場づくりを進めます。
- 学びを支える人材の掘り起こし・育成を、地域・団体・関係機関と連携しながら進めます。
- まちづくり協議会をはじめ、市民・地域・団体が主体となった世代や活動分野のつながりを深める学びを支援します。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- ・知っていることを周りに話してみよう。
- ・地域活動や行事に足を運ぼう。
- ・特技・経験などを活かし、サポーターや指導者としてだけでなく、まずはちょっとしたお手伝いなど、それぞれができる範囲で活動に参加・参画していこう。

地域

- ・人材を発掘し、活用しよう。
- ・様々な団体などと連携・協力しながら、学んだ成果（知恵・技能・体験など）を発揮できる場をつくっていこう。

関係機関・団体

- ・人材を発掘し、活用しよう。
- ・様々な団体などと連携・協力しながら、学んだ成果（知恵・技能・体験など）を発揮できる場をつくっていこう。

行政

- ・学んだ成果（知恵・技能・体験など）を発揮できる場を、関係機関・団体などと連携しながらつくっています。

目標4 多様性を認め合う社会を築いていこう！

目指す5年後のまちの姿

- ◇性別・国籍・文化・年齢・障がいの有無などに関わらず、誰もが個性や能力を輝かせ、その人らしく暮らしています。
- ◇個性や違いを認めあい、お互いを尊重しあう・支え合う風土が育まれています。
- ◇新たな学びや文化などに会うことで、新たな人と人とのつながり、新たなモノ・コトが生まれています。

5年後のまちの姿の実現を見据えた 課題・視点

- ・一人として同じ人はおらず、個人の違いを認め合い、尊重しあうことが大切です。
- ・想いに寄り添い、必要な人や機関につなぐといった相談・支援、コーディネート（機能）が必要です。
- ・お互いの個性や多様性を理解することは、新たな価値観やアイデアの源となります。様々な生き方や考え方などがあることを、知ることができる機会が必要です。



多文化共生コミュニティセンター
日本のお盆と「夏祭り」体験



文化協会芸能発表会
(インドネシアの踊り「チキンダンス」の披露)

こんなことに取り組んでいきます！

- 「多文化共生コミュニティセンター」において、仲間づくりや日本語学習、生活相談などのサポートを行います。
- 相互理解や多文化共生など、多様性についての情報発信、学習機会や交流機会の充実、人材育成、ネットワークづくりを進めます。
- 多言語表記、手話通訳、大活字本、音声ガイド、点字アートなど学びのニーズに応じた情報伝達に努めます。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- ・「みんな違ってみんないい」を合言葉にしよう。
- ・自分以外の人たちから学ぼう。
- ・体験会や行事などに参加しよう。

地域

- ・「みんな違ってみんないい」を合言葉にしよう。
- ・多様性の視点を取り入れて、事業を企画・実施していこう。

関係機関・団体

- ・持っている情報を提供・発信しよう。
- ・多様性の視点を取り入れて、事業を企画・実施していこう。

行政

- ・多様性に関する情報発信や相談・支援、多様性の視点を取り入れた事業を関係機関・団体と連携しながら実施します。
- ・すべての人にわかりやすい表現で情報を届けます。

目標5 スポーツをしよう・観よう・支えよう！

目指す5年後のまちの姿

- ◇年齢や経験などに関わらず、誰もがスポーツ（レクリエーションや健康づくりを含む。以下同じ）に親しんでいます。
- ◇日常的に身体を動かすことにより、体力や気力・意欲が高まり、いきいきした人生を送る人が増えています。
- ◇スポーツを通して、市民同士のふれあいや連帯感が育まれています。

5年後のまちの姿の実現を見据えた 課題・視点

- ・総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員、スポーツ協会、スポーツ少年団、高浜ボートクラブ、連携協定を締結している企業など、多様な主体と連携・協力し、「する」「みる」「ささえる」の観点から、スポーツを推進していくことが大切です。
- ・身心の健全な発育・発達、健康寿命延伸などの観点から、年齢、障がいやスポーツ経験の有無に関わらず、スポーツへの興味・関心の喚起、身体を動かすことの楽しさや健康づくりの効果を実感できる機会を創出していくことが大切です。
- ・スポーツを通して、市民同士が個々の力を高め合うとともに、相互のつながりを深めていくことが大切です。



ボッチャ大会



健康体操

こんなことに取り組んでいきます！

- 「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」スポーツに親しむことができるよう、年齢、興味・関心、体力、技術・技能レベルに応じて楽しめるスポーツの機会を、関係団体などと連携・協力しながら充実します。
- 競技力の向上や市民交流の場として、各種大会を関係団体などと連携して実施します。
- アスリートや指導者の招聘など、スポーツを通じて夢や感動を共有できるプログラムを、企業や関係団体と連携・協力して実施します。
- 指導者・サポーターの育成や活躍の場の創出、スポーツ振興にまつわる補助金や奨励金、スポーツ活動環境の整備や維持管理など、人・物の両面からスポーツ活動を支えます。
- 学校部活動の地域移行に向け、学校やスポーツ団体などと検討します。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- ・外出も含め、毎日身体を動かそう。
- ・スポーツをするだけでなく、試合観戦や応援、練習や大会などを手伝うこと（ささえる）も大切にしよう。

地域

- ・スポーツの参加機会の裾野を広げよう。
- ・みんなで成し遂げる喜びを感じあおう。

関係機関・団体

- ・学校の部活動など、子どものスポーツ活動を支える取組みを推進しよう。
- ・持っている知恵・技能・経験などを活かし、スポーツへの興味・関心の喚起やスポーツ人口の拡大に取り組もう。

行政

- ・市民・地域・関係機関・団体と連携しながら、スポーツ活動を支えます。
- ・利用しやすく、安全で安心できるスポーツ環境を整えます。

目標6 学びがつながる環境づくりを進めます

目指す5年後のまちの姿

- ◇大学等の専門機関や学識経験者、企業や NPO（特定非営利活動法人）、高浜市の出身者やゆかりのある人など、多様な主体と連携・協力した事業が活発に行われています。
- ◇学びの情報がわかりやすく、必要な人に届く環境が整っています。
- ◇生涯学習・文化・スポーツ施設の長寿命化対策が計画的に行われています。
- ◇時代に応じた学習環境が整備されています。

5年後のまちの姿の実現を見据えた 課題・視点

- ・学びに関する関係人口を増やし、連携・協力のネットワークを広げていくことが大切です。
- ・「学びたい」「活動したい」という想いを応援し、人と人、人と学びがつながりあうようにしていくためには、学びに関する情報発信が大切です。
- ・生涯学習・文化・スポーツ施設の計画的な再編を進めるとともに、安全・安心して利用できるように維持管理に努めていくことが大切です。
- ・デジタル化社会への対応など、時代や生き方・働き方などに合った学習環境を整えていくことが必要です。

企業との連携協定

まちの活性化や健康づくりの推進及び健康寿命の延伸などを目的として、高浜市と様々な企業が包括的連携協定*を締結し、民間活力を活かしながらスポーツ・健康、まちづくり、学びの支援を行っています。

また地元プロクラブチームと協力しながら子どもたちへリアル（本物）体験の提供も行っています。

*包括的連携協定：地域が抱える社会課題に対して市と企業が双方の強みを活かし、協力しながら課題解決に対応する枠組み



こんなことに取り組んでいきます！

- 大学等の専門機関や学識経験者、企業や NPO（特定非営利活動法人）、高浜市の出身者やゆかりのある人など、多様な主体と連携・協力しながら、学びを推進します。
- 学びに関する情報を、わかりやすく発信します。
- 「高浜市公共施設総合管理計画」に基づき、生涯学習・文化・スポーツ施設のあり方検討や長寿命化対策も含めた維持管理を計画的に行います。
- 無料公衆無線 LAN サービス（Free Wi-Fi）、公共施設予約システムなど、ICTを活用した学習環境の導入を検討します。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- ・人材・情報・施設などの資源を有効活用しよう。
- ・持っている情報を提供しよう。

地域

- ・多様な主体と連携・協力しながら、事業・活動の幅を広げていこう。
- ・持っている情報を提供しあおう。

関係機関・団体

- ・得意な分野や強みを活かして学びを支えよう。
- ・多様な主体と連携・協力しながら、事業・活動の幅を広げていこう。
- ・持っている情報を提供しあおう。

行政

- ・外部資源に関する情報収集に努め、つながりを広げ、活かしていきます。
- ・学びに関する情報を収集し、発信します。
- ・利用しやすく、安全で安心できる学習環境を整えます。



基本目標Ⅲ

目標 7 「たかはま大好き」の想いを高めよう!

目標 8 学びの成果や地域の個性をまちづくりに活かしていこう!



目標7 「たかはま大好き」の想いを高めよう！

目指す5年後のまちの姿

- ◇「高浜市が好き」という市民、「わがまち高浜」と一人称で語る市民が増えています。
- ◇先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民の共有財産として継承され、地域に息づいています。

5年後のまちの姿の実現を見据えた 課題・視点

- ・「高浜市が好き」という想いを高めていくためには、住んでいるまちのあゆみや活動、地域の祭りや伝統文化に関する行事など、まちの歴史・文化や魅力・自慢に出会う・見る・知る・学ぶ機会を豊かにしていくことが大切です。
- ・まちのあゆみを知ることができる各種資料や、人々の中にあるまちの記憶が失われてしまわないよう、また今を生きる市民や将来の市民が活用できるよう、整理・保存を進めていく必要があります。
- ・民俗芸能や昔から守り伝えられてきた伝統の技など、人々の日常の暮らしやならわしの中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた個性豊かな文化財を守り、伝え、活用していくことが大切です。



児童対象の「ボート体験会」
(高浜川にまつわる郷土学習も併せて実施)



吉浜細工人形「市制50周年記念『高浜市の無形民俗文化財』」(地域交流施設(たかぴあ)にて)

こんなことに取り組んでいきます！

- 市民同士がまちのあゆみについて語り合う場やまち歩きなど、様々な角度からまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）を知る・見る・聴く・触れる機会を設けます。
- 「資料を提供する」「昔の記憶を語る」「調べたことを伝える」「写真や映像に残す」など、市民の知識や経験・特技などを活かしながら、まちのあゆみをつむぐ・つなぐ取組みを進めます。
- 新編高浜市誌「高浜市のあゆみ」に掲載しきれなかった先人たちの足跡などについて調査を継続し、後世へ伝え、人づくり・まちづくりに活かす取組みを進めます。
- 文化財の調査や適切な保護・保存・活用などを推進するとともに、継承に向けて、団体・地域などと連携しながら、情報発信や後継者の発掘・育成につなげる取組みを進めます。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- ・地域の祭りや行事に足を運び、参加してみよう。
- ・まちのあゆみや魅力・自慢に関して知っていることを伝えよう。
- ・まちのあゆみや特徴、魅力・自慢について調べ、みんなで話し合ってみよう。

地域

- ・まちのあゆみや魅力・自慢に関する情報収集・発信をしよう。
- ・まちの魅力・自慢に磨きをかけ、活用していこう。
- ・後継者を発掘し、育成しよう。

関係機関・団体

- ・まちのあゆみや魅力・自慢に関する情報収集・発信をしよう。
- ・まちの魅力・自慢に磨きをかけ、活用していこう。
- ・後継者を発掘し、育成しよう。

行政

- ・多様な主体と連携・協力しながら、まちのあゆみを知ることができ資料や人々の記憶が散逸・消失しないよう、適切に記録・保存します。
- ・文化財の保護・活用を進めます。

目標8 学びの成果や地域の個性をまちづくりに活かしていこう！

目指す5年後のまちの姿

- ◇「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といった思いを持ち、行動する市民が増えています。
- ◇子どもからお年寄りまで、団体や企業、関係機関も含め、一人ひとりの多様な力を活かし、「大家族たかはま」としてつながりあいながら、学び・文化・スポーツに取り組んでいます。
- ◇市民の市政運営への参加・参画機会や協働で取り組む事業が増えています。

5年後のまちの姿の実現を見据えた 課題・視点

- ・まちに多様性を生み、成長・発展に向けたエネルギーとしていくため、子育て・子育て、福祉、健康、産業、防犯・防災、環境、多文化共生など、様々な分野の取組みを学びという視点で横ぐしを通し、相乗効果を高めていくことが大切です。
- ・市民の「学びたい」「活動したい」という思いを応援するため、学びを支える体制づくりを進めていくことが大切です。
- ・学びの成果を市政運営やまちづくりに活かすことができるよう、参加・参画機会の創出や協働を進めていくことが重要です。



第7次高浜市総合計画策定にかかわる
“高浜市の未来を描く市民会議”



市役所職員による小学校への
“財政出前授業”

こんなことに取り組んでいきます！

- まちのことを自分事と捉え、まちの課題や魅力などについて、課題を解決する手段やまちを成長させる取組みをみんなで一緒に考え、ともに力を合わせてまちづくりを進めます。
- 市民の自主的・自発的な地域の課題に対応したまちづくり、地域の個性を活かしたまちづくりを応援していきます。
- 人材の掘り起こし、情報の収集・発信、多様な主体がつながり合う場の創出など、様々な分野の取組みを学びという視点で横ぐしを通し、学びを支える仕組み・体制づくりを進めます。

みんなで力を合わせて進めていこう！ ～それぞれの役割～

市民

- ・持っている力（知恵・特技・経験など）を出し合おう。

地域

- ・一人ひとりの力を集めて、「大家族たかはま」の力でまちの課題を解決や魅力増進に取り組んでいこう。

関係機関・団体

- ・一人ひとりの力を集めて、「大家族たかはま」の力でまちの課題を解決や魅力増進に取り組んでいこう。

行政

- ・学びを支える仕組み・体制づくりを進めます。

高浜市民憲章

わたくしたち高浜市民は、力を合わせ、英知と勇気をもって実践します。

1. スポーツに親しみ、健康な体をつくります。
1. 教養をたかめ、心のかよう家庭をつくります。
1. 仕事に誇りをもち、豊かなまちをつくります。
1. きまりを守り、住みよい社会をつくります。
1. きれいな水と青い空の、美しい郷土をつくります。

「高浜市民憲章」は、明るく、豊かな、住みよい高浜市を築いていく上での、市民一人ひとりが実践する生活目標、生活信条、社会的規範です（昭和50年（1975）11月1日制定）。

人口増加で薄れがちな市民の連帯意識を取り戻し、明るく豊かな住みよい高浜市にするために、一般公募により決めました。

第3次高浜市生涯学習基本構想
高浜市生涯学習基本計画【前期】
2023～2027

みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう
～学びをつなぐ 学びでつながる 大家族たかはま～

令和5年3月

発 行

高浜市役所 こども未来部 文化スポーツグループ
(高浜市いきいき広場3階)

〒444-1334 愛知県高浜市春日町五丁目165番地
<電 話> 0566-52-1111(代表)
<E-mail> bunka@city.takahama.lg.jp